（別紙４）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターつくし学園			
○保護者評価実施期間	令和7年12月24日		～	令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	25	（回答者数）	20
○従業者評価実施期間	令和7年12月24日		～	令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	1	（回答者数）	1
○訪問先施設評価実施期間	令和7年12月24日		～	令和8年1月31日
○訪問先施設評価有効回答数	（対象数）	15	（回答数）	13
○事業者向け自己評価表作成日	令和８年　３月　１日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	送迎時、保護者とその日のこどもの様子を詳しく伝えている。また、保護者からの相談にも柔軟に対応し、家族支援にも取り組んでいる。	・担当職員が送迎時に保護者と対面して、こどもの様子を詳しく伝えたり、家での様子を聞いて相談にのりながら家族に寄り添った支援を行っている。 ・相談があった時は、連絡帳だけではなく、顔を見て話をするように心がけている。	家庭の事情で保護者に会う頻度が少ない家庭もあり、保護者と定期的に情報交換ができる場を作っていきたい。
2	保護者会の実施や保護者参加の行事が多く、こどもの様子を実際に見ることができたり、成長や悩みについて話せる時間を多くとっている。	・保護者同士で話ができる座談会の場を設定したり、カフェを開いたりして、悩みを共感できる場を作っている。 ・様々な親子教室を開き、家庭でもできるクッキングを行ったり、こどもたちが楽しんでいる姿を見ることができるプール教室や音楽教室を行っている。	親子教室は保護者の仕事や家庭の事情で参加が難しい家庭もある。休みがとりやすいように午後の時間に設定したり、都合をつけやすいように早めに告知するなどして、参加できるように対応したい。
3	外来グループ療育と保育所等訪問、通園事業のなかで必要な情報を共有しながら、多方面で支援できるようにしている。	併行通園をしているこどもの支援について、通園の職員と保育所等訪問の職員と情報交換をしたり、面談に入りながら、統一した支援ができるようにしている。外来グループ療育も同様で、情報交換だけではなく、面談に入り支援について家庭と一緒に考えている。	関わっている職員が実際の現場に入り、こどもと関わりながら情報を共有することも行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	組織で支援力を底上げする必要があると感じる。	法人内での職員の異動があり、未就学児の支援に初めて関わる職員もいる。個々の経験が違うこともあり、支援力に差が出ることもある。	園内研修や外部講師を呼ぶ等して、組織で支援力を上げていくようにする。
2	第三者の外部評価が以前よりも減っている。	第三者の外部講師が以前まで来ていたが、日程の調整が難しかったり、都合がつきにくいこともあり、外部講師に来ていただく機会が減っている。	現在つながっている外部と継続的に交流を行い、意見をもらいながら、第三者からの声を聞いて、事業の見直しに繋げていく。
3			